



**着色ではなく
木が自ら発色する
自然の力に賭ける。**

天然鉱泉で発色させた新しい突板製造のきっかけとなったのは、近年、悩む人が増えているというシックハウス症候群。住宅やオフィスビルなどの建物に入ると、目や喉の痛み、めまいなどがあらわれるという症状だが、その原因の一つにあげられているのが、建築資材や家具の製造過程で使われる化学着色塗料だった。実は、戦後間もない頃までは、木を発色させるには、木酢酸のような天然素材を使っていた。当時のように、人と環境に優しい素材で突板を発色で

きないだろうかと考えたオサジマ代表・箴島氏は、福岡県工業技術センター・インテリア研究所と連携して、研究をスタート。「温泉水」を使って着色するという画期的なアイデアが生まれた。

内装材や家具の健康突板として 安定供給を目指す。

温泉水には、近隣の筑後市に湧く船小屋鉱泉を使用した。この鉄分豊富な鉱泉に、オーク材やヒノキなどの天然突板を浸すと白い木目が、高級感のあるパープルやシックなグレーに変化した。「驚きました。100年前から、飲用される鉱

(上) 工場にはベテランの職人さんが、鮮やかな手作業で突板を加工している。
(中) 鉱泉に浸された突板。気候や鉱泉温度を変え、発色の変化を研究中。安定した発色が今後の課題。
(下) 明治時代から湧く船小屋鉱泉。鉄分を豊富に含み、胃腸に良い温泉として昔から親しまれている。

泉で着色できれば、真正銘の体に優しい突板になりますから」と箴島氏。高級感のある天然着色の突板でしかも、健康志向となれば、市場ニーズも高い。現状では、まだ、サンプルレベルで、商品化にはまだ乗り越えなければならぬステップはあるが、新商品の夢は広がっている。



鉱泉と木の特性が見事に調和して優しい色合いに発色した人と環境に優しい突板。

[福岡県・大川市]

環境負荷に配慮した天然鉱泉着色木製品の開発

オサジマ

Company Info.

木の特性を見て突板を自在に加工。 確かな仕事で信頼を勝ち取る。

昭和56年創業の突板加工会社。オーダーメイドサイズの突板加工を手がける。工場には、この道20年以上の大ベテランをはじめ、腕利きの職人さんばかり。木の特性を見極め、実直で卓越した仕事ぶりが、内装業者の間で評判を呼び、アクロス福岡のシンフォニーホールやホテルオークラ福岡といった、数々の有名施設の内装材の突板加工を手がけている。安価な外国製家具に押され、低迷する大川の突板加工業界を、牽引するバイオニアだ。



箴島浩さん/二代目代表。好きな言葉は「誠実」という代表。人と環境に優しい新しい突板は、同氏の誠実で温かな人柄と、仕事ぶりがあって生まれた産物だ。



オサジマ

福岡県大川市大字向島1110
TEL. 0944-86-4168



○活用する地域資源：大川木工製品

シックハウス対策の 健康資材として 業界から期待。

近年、健康志向が高まるなか、健康に配慮した製品の需要は、建築業界や家具メーカーへも広がっている。そんなニーズに答えが求められたのが、突板加工会社が開発した人と環境に優しい新しい突板だ。天然木の突板を、天然鉱泉に一定期間漬け込むと、突板自体が発色するという特性を活かして開発。商品化へ向けた試みが続けられている。